

令和7年度第3回社会教育委員の会議

令和7年9月12日（金）

午前10時00分開会

開催日時	令和7年9月12日	開会10時00分	
場 所	萌え木ホール3階 B会議室		
出席委員	議 長 笹井 宏益 副 議 長 金澤 大恵 委 員 新井 しのぶ 委 員 藤森 光一 委 員 北澤 隆司	委 員 渡邊 ふき子 委 員 伊丹 文男 委 員 池田 佳代 委 員 小林 浩 委 員 鈴木 哲也	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習部長 平野 純也 生涯学習課長 濱松 俊彦	図書館長 三浦 真 公民館長 鈴木 茂哉	
事務局	生涯学習係長 最所 拓也		
傍聴者人数	0人		

日程	議 題	
第1	議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 正副議長の互選について</li> <li>(2) 社会教育委員の会議について</li> <li>(3) 図書館協議会への出向委員の選任について</li> <li>(4) 放課後子どもプラン運営委員会への出向委員の選任について</li> <li>(5) 前期委員の検討事項等について</li> <li>(6) 会議録の承認について</li> <li>(7) 会議の日程について（確認）</li> <li>(8) 関東甲信越静社会教育研究大会について</li> <li>(9) 第5次生涯学習推進計画策定について</li> <li>(10) その他</li> </ul>

開会 午前10時00分

濱松生涯学習課長 定刻になりましたので、開会したいと思います。

私は生涯学習課長の濱松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、池田委員より欠席の連絡をいただいております。まず、事前の交付式から始めたいと思いますが、今日は隣でイングリッシュハンドベルの練習をされるということで、音が鳴ってしまうかもしれないと団体の方から御挨拶がございましたので、事前に申し上げます。

それでは、交付式を行います。

教育長が順番に皆様のところを回りますので、恐れ入りますが御起立いただき、お受けいただきますようお願いいたします。

大熊教育長 委嘱状、新井しのぶ様、小金井市社会教育委員を委嘱する。期間、令和7年9月9日から令和9年9月8日まで。令和7年9月9日小金井市。よろしく願いいたします。

委嘱状、伊丹文雄様、以下同文でございます。よろしく願いいたします。

伊丹委員 ありがとうございます。

大熊教育長 委嘱状、金澤大恵様、以下同文でございます。よろしく願いいたします。

金澤委員 ありがとうございます。

大熊教育長 委嘱状、北澤隆司様、以下同文でございます。よろしく願いいたします。

委嘱状、小林浩様、以下同文でございます。よろしく願いいたします。

委嘱状、笹井宏益様、以下同文でございます。よろしく願いいたします。

委嘱状、鈴木哲也様、よろしく願いいたします。

鈴木委員 よろしく願いいたします。

大熊教育長 委嘱状、藤森光一様、よろしくお願いいたします。

藤森委員 よろしくお願ひします。

大熊教育長 委嘱状、渡邊ふき子様、以下同文でございます。よろしくお願ひいたします。

渡邊委員 よろしくお願ひいたします。

濱松生涯学習課長 ありがとうございます。

続きまして、大熊教育長より御挨拶を申し上げます。よろしくお願ひいたします。

大熊教育長 皆様、本日は誠にありがとうございます。今回は特別なときでもありましたので、文章にして、事前に配りました。読み上げます。

私たちが直面している社会は、先を見通すことが難しく、予想困難な時代と言われています。また、様々な問題を先送りしてしまった結果、重大な問題ばかりが山積してしまっている時代とも言えます。その一つが地域の絆が分断され、家庭は孤立化し、子育てもまた、そこに書いてあるように、「孤育て」と呼ばれる状況に置かれていることです。さらに、地域社会の教育力が低下しつつある現実も、決して看過できるものではありません。

このような時代にあって、社会教育・生涯学習の意義はますます重みを増しています。教育基本法には、生涯にわたる学習は「個人の人格の完成」と同時に、「社会の発展」に寄与するものであることが明記されています。つまり、学びは個人の趣味や楽しみにとどまるものではなく、社会をよりよくする力として生かされるべきである、という理念であります。

生涯学習を通じて、一人ひとりが自らの可能性を広げ、他者との関わりを深めるとき、地域には新たな絆が生まれます。そしてその絆こそが、未来を担う子どもたちを支える確かな土台となります。学びは孤立を解きほぐし、分断を乗り越え、社会全体に希望を生み出す力なのです。

文部科学省においても、「地域学校協働活動」や「家庭教育支援」を推進し、学びが社会全体を支える営みとなるよう取り組みが進められています。この流れを地域に根付かせるためにも、社会教育委員の果たす役割は極めて大きく、その使命は教育の根幹にかかわるものといえます。

そして最後に、今回の社会教育委員には大きな役割が課せられています。これは「第5次生涯学習計画」を策定するという歴史的な使命です。持続可能な社会を築き上げるために、今回の改訂はこれまでの流れを大きく転換する契機となるものと考えます。その際、欠かせないのが、市民一人ひとりの主体的な参加と、多様な立場が知恵を持ち寄る協働の営みです。もちろん、変化には不安が伴います。しかし、ここは勇気を持って一歩踏み出し、市民とともに未来を切り開いていく時であります。

私たち教育委員会も、その先頭に立ち、市民参加と協創を大切にしながら全力を尽くしてまいります。どうか皆さまの御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

もう一つ、今、改定中の小金井の教育目標を配りました。この中段1項に、生涯学習の理念を書いています。四角の真ん中の下辺り、読み上げます。

また、すべての市民が学びを通じて豊かな人生を送り、一人ひとりの成長が社会全体の発展につながるよう、この部分が今までと大きく変わったところがございます。

これまでの教育目標は、個人の幸せを担保することを目指していましたが、よくよく勉強したときに、教育基本法の言葉を今日、紹介いたしました。一人ひとりの学びが社会全体の発展につながることを生涯学習として書かれているわけです。それをしっかりと踏まえ、今回の目標にも明記しました。そのことは、これまでの生涯学習と大きく異なる点だと認識しております。そのことを踏まえ、今回の生涯学習計画を作っていくことになると思いますので、皆さんのお知恵をお借りして、より良いものを作っていきたいと思っています。スタッフはそろっておりますので、大丈夫だと思います。後で説明があると思いますが、とても短い時間で作り上げなければいけないことになっておりますが、良いものを作りたいと思います。そのためにも、どんな気持ちでいるのか文章にいたしました。こんなものではなく、もっと先に行けというのもあって良いと思います。その点、どうかよろしく願いいたします。以上でございます。

議会があるので、もう始まっていますがそちらに行かなければいけないので、今日はこれで失礼いたします。どうかよろしく願いします。

濱松生涯学習課長 ありがとうございます。教育長が今申し上げた通り、公務がございましたので、ここで退席いたします。

大熊教育長 すみません、よろしく申し上げます。

濱松生涯学習課長 続きまして、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。先ほど委嘱状を交付させていただいた順番で自己紹介を簡単にお願ひいたします。まずは、新井委員よりお願ひします。

新井委員 小金井市立東中学校校長 新井と申します。2期目になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

伊丹委員 伊丹と申します。NPO法人小金井市文化協会の役員をやっております。私は、80歳を数年超えております。ですので、多分この中では、一番の上の年齢ではないかなと思っております。この2年間をしっかりとやっていきたいと思っております。

金澤委員 金澤と申します。社会教育委員は3期目務めいただいております。所属の団体は小金井市文化連盟になります。精一杯務めて参ります。よろしくお願ひいたします。

北澤委員 北澤です。所属は小金井市登録手話通訳者連絡会で活動しております。社会教育委員3期目ということで、最後集大成として頑張らせていただきます。よろしくお願ひいたします。

小林委員 小林でございます。おやじの会やら放課後カフェやら、3小、緑中地域で子どもたちと地域の人たちをうまくまとめるというか、知り合いになるというか、人間関係を耕すというようなことやっております。社会教育士の資格も持っております。今回の計画の策定は、頑張りたいと思ひます。

笹井委員 笹井と申します。玉川大学客員教授をしております。生涯学習、社会教育を専門としております。よろしくお願ひいたします。

鈴木委員 おはようございます。鈴木です。2年ぶりにこの会議に帰ってきました。31期の社会教育委員をさせていただいた際には、皆様はじめ管外研修や大会で知り合った他市の方と色々な勉強をさせていただきました。この2年間様々な経験をして、戻ってまいりました。今回取り組みたいのは、人材を登録できるデータベ

ースであります。現在、部活動の地域移行の検討委員会をさせていただいていますが、日頃からあの人部活の指導者であつたらいいなと思う人が何人もいますがつながっていない。生涯学習課の市民講師登録制度、指導室には学校ボランティアがあります。このあたりうまく使いながら、未来のある中学生において良いつながりを作り仕組みを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。もう一つ、部活動に限らず、公民館講座の社会教育や人のつながりで学んだことを次の人に広げていけるような仕組みもできたらいいなと思っています。役所の皆様、委員の皆様、良い年をしてまだ完成に至らず、発展途上の人間なんですが、どうぞよろしく願いいたします。自己紹介というのは大嫌いのなので、もっと詳しいことはこのQRコードにまとめてきました。ご興味があればこのQRコードを読み取ってください。よろしく願いいたします。

藤森委員

初めましてよろしく願いいたします。私は藤森と申します。所属の団体は小金井市立小中学校PTA連合会から来ました。PTAは初めて入ったんですが、私は元々サラリーマンで保育園の運営をやっている、小金井プチクレイシュとか、学びのもりなどの小金井市で保育園を運営している会社で18年間、保育士や児童館施設の施設長やって、この間独立起業して、学芸大学の前にこどもの居場所、午前中に不登校の子どもためのフリースクールを運営して、午後は学童保育所を運営するという事業を始めました。それもあって社会教育に興味があったり、不登校の子は学校教育を受けることができないので、学校教育ではない地域の社会教育資源そういったものがうまく活用できる小金井になっていけばいいなと思っています、そこに自分が参加できるなら参加したいと思い、今回立候補させていただきました。2年間よろしく願いいたします。

渡邊委員

皆さんこんにちは、渡邊ふき子と申します。わたくしは、国際ソロプチミスト東京小金井からやってまいりました。そちらのほうもまだ2年ほどの経験なんですが、社会教育委員は初めてということで、わからないことばかりですが、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思っています。よろしく願いいたします。

濱松生涯学習課長 皆様、ありがとうございました。それでは、事務局側の自己紹

介をさせていただきます。生涯学習部長から紹介させていただきます。

平野生涯学習部長 皆さんこんにちは。生涯学習部長の平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。生涯学習・社会教育について、少し語ろうかと思いましたが、先ほど教育長がだいぶ熱く語ってききましたし、教育長と我々は考えを合わせて臨んでおりますので、少し割愛させていただきます。教育長も申し上げておりましたけれども、これから第5次生涯学習推進計画を極めて短い期間生涯学習発展推進するためにさらに頑張っていきたいと思っております。皆様、ご協力をお願いいたします。

三浦図書館長 皆さんこんにちは。図書館長の三浦と申します。図書館に異動してまだ一年足らずということで、その前は生涯学習課長をさせていただいておりました。市内に住んでおまして、子育ても一段落しておまして、2年間と限られた時間ではありますが、よろしくお願いいたします。

鈴木公民課長 公民館長の鈴木と申します。私自身、4月に異動してきておまして、教育委員会は初めて着任させていただきました。皆様にご指導いただきながら、生涯学習・社会教育行政に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。

最所生涯学習係長 生涯学習係長の最所と申します。令和7年4月より着任いたしました。この社会教育委員の窓口となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

濱松生涯学習課長 生涯学習課長の濱松と申します。この4月より着任いたしまして、まだわからないこともあるかと思いますが、皆様にご指導いただきながら、頑張っていきたいと思っております。

それでは本日、最初の会議となりますので、議長、副議長が決まるまで、私が会議を進めます。

議事に入ります前に、議事録の作成方法について確認いたします。

市の会議につきましては、小金井市市民参加条例第6条の規定により、原則公開となっております。また、同条例施行規則、施行規則第5条には、会議録の作成方法として、全文記録、発言者の発言内容ごとの要点記録、会議内容の要点記録の三つの中か

ら選択することと規定されております。

本社会教育委員の会議につきましては、これまで全文記録で会議録を作成しております。事務局といたしましては、引き続き全文記録で作成したいと考えておりますが、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

濱松生涯学習課長 ありがとうございます。

小林委員 事務局の手間が一番少ないのは全文ですか。

濱松生涯学習課長 そうです。そのまま出すということでは、全文が一番でしょう。

小林委員 では、リソースの節約ということで。分かりました。

濱松生涯学習課長 ありがとうございます。その他、何か御意見ございますでしょうか。ないようでしたら、御異議なしと認めます。

なお、議事録作成の都合上、御発言の前にはお名前をおっしゃっていただいてから発言をお願いしたいと思います。

濱松生涯学習課長 それでは、議事に移ります。

はじめに、議長の互選を行います。

議長につきましては、社会教育委員の会議規則第2条の規定により、委員の互選によって定めるものとされております。指名推薦の方法で行いたいと思っておりますが、これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

濱松生涯学習課長 御異議なしと認めます。

それでは、どなたか御推薦いただけますでしょうか。

では、金澤委員。

金澤委員 学識経験者ということで、笹井委員を推薦いたします。

濱松生涯学習課長 ただいま金澤委員から笹井委員を御推薦いただきました。これに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

濱松生涯学習課長　ご異議なしと認めます。これをもちまして、笹井委員を委員長とすることに決定いたしました。では、これより先の議事進行につきましては、笹井委員にお願いしたいと思います。笹井委員、議長席へお願いいたします。

笹井議長　ただ今、議長を拝命いたしました笹井です。改めまして、よろしく申し上げます。

では、早速ですが、副議長の互選を行いたいと思います。副議長についても、議長同様、社会教育委員の会議規則第2条の規定により、委員の互選によって定めるとされております。どなたか立候補または御推薦等ありますでしょうか。よろしく申し上げます。では、北澤委員。

北澤委員　前期から継続委員でいらっしゃる、金澤委員を推薦いたします。

笹井議長　ただいま北澤委員から金澤委員を御推薦いただきました。これに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

笹井議長　ご異議なしと認めます。それでは金澤委員を副議長とすることに決定いたしました。金澤委員は、副議長席にご移動をお願いいたします。それでは、金澤副議長から一言。

金澤副議長　金澤でございます。北澤委員、3期目までずっと御一緒させていただいていて、いろいろありがとうございます。御推薦を受け止めて、しっかり務めさせていただきます。今回から2年間、初めてお会いする皆様とすでに仲良しの皆様と、有意義でためになるような進行ができるように、笹井議長をお支えして務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

笹井議長　それでは、議事に沿って進めます。

議題(2)、社会教育委員の会議について、とありますので、御説明を事務局からお願いいたします。

最所生涯学習係長 次第に入ります。

まず、配布資料を確認します。お手元に、配布資料をお配りしております。配布資料で足りないものがあれば、言っていただければと。なかったとき、気づいたときに言っていただければと思っております。

また、新規の委員の方には、第4次の生涯学習推進計画をお配りしております。そちらも御確認してください。

次に次第(2)、社会教育委員の会議について、本会議の内容の御説明を私からいたします。

資料2を御覧ください。

本会議、社会教育委員については、「社会教育法」に規定されておりました。社会教育に関する計画の立案、調査研究を行うなどによって、社会教育に関して教育委員会に助言する役割を果たしております。社会教育委員は、学校教育関係者や社会教育関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行う方々に委嘱されておりました。地域において社会教育の優れた知見を有する人々の知識を、社会教育行政に反映させていくことが期待されていると書かれております。

続きまして、2番、身分、報酬、任期等です。身分については、非常勤の特別職の公務員となります。社会教育委員の会議の出席に対して月額1万円で、源泉徴収を行います。そちらをお支払いする形になっております。また、公務で出張を行った場合は、交通費をお支払いいたします。社会教育委員は、原則として3期まで務めることができます。1期あたり2年で計6年です。審査会の委員は、原則二つまで兼ねることができることになっております。

続きまして、3番、任期中の主な活動です。社会教育委員の会議、この会議は、通常年8回を予定しております。本市の社会教育に関する議題についての調査、研究及び討議を行います。教育長の諮問に応じて、調査、研究、協議をし、答申、意見をまとめております。また、先ほど御説明あったとおり、社会教育、生涯学習推進計画の進捗について、意見を確認し、意見を述べるとともに、5年に1度の計画の見直し、策定の協議を行っていただきます。通常年に8回行いますが、1回は管外視察、今年度はありません。また、そのうちもう1回は、四者合同会議、研修会を予定しております。

続きまして、②番、各種委員会、協議会への出席です。図書館協議会、放課後子どもプラン運営委員会に、社会教育委員から、各1名出向をしております。

続きまして、③番です。東京都市町村社会教育委員連絡協議会の

開催の研修会等の参加についてです。略して都市社連協と呼んでいますが、今回の社会教育委員の小金井市と26市の会議体と考えていただいても構いませんが、そちらの会議で11月にブロック研修会、12月に交流大会、4月に総会を毎年実施しています。26市の幹事市を順番に交代で行っておりますが、令和7年度につきましては小金井市が幹事市ということで、先ほどありました計画策定と並び、26市の幹事市としてこの都市社連協の会議の運営を、この社会教育委員の皆様に行っていただく形になっております。具体的には、ブロック研修会と12月交流大会がありますが、宮地楽器ホールで実施する形になっております。日程等につきまして、後ほど御説明いたします。

続きまして、④番。関東甲信越静教育研究大会への参加です。今年度、神奈川大会が横浜関内ホールにて実施されるものです。市では、毎年2名ほど予算を計上して、派遣という形で、二人ほど行っていただいております。参加回数の少ない方を優先して委員を決定しております。

4番、小金井市社会教育委員の会議と関係のある団体です。私が先ほど述べました、都市社連協です。東京都の多摩地区26市3町が会員となって組織している社会教育委員の連絡協議会です。先ほど申し上げました、総会、交流大会、ブロック研修会、これが主な開催となっております。小金井市は、ブロックの中では武蔵野、三鷹、府中、調布、狛江とともに第5ブロックに所属しております。7年度は、ブロックの幹事市ではなく、全体の幹事市として会長市となっております。

続きまして、図書館協議会、公民館運営審議会、小金井市スポーツ審議会、こちらは庁内の協議会、運営委員会の御説明です。先ほど出向があると申し上げた図書館協議会につきましては、役割として図書館の運営に関することが主な審議内容となっております。公民館については、公民館の運営や各種企画実施についての調査、研究を審議会として公民館が所管としてやっています。もう一つ、小金井市スポーツ推進審議会は生涯学習課が所管ですが、スポーツ振興ということでスポーツ振興計画の辺りをメインの議題としてやっております。先ほど申しました四者合同会議のメンバーが、本会議と図書館、公民館、スポーツを四つ合わせて四者合同会議としてやっております。

続きまして、5番です。社会教育委員の会議です。これまでの答申、提言を一覧にしています。そちらはお目通しいただければと思っております。

続きまして、次のページ、関係法令です。こちらは本委員会の設置等、社会教育会議の関連の法律となっております。めくっていただいた後も続いております。社会教育委員の設置に要する条例、会議規則と続いておりますので、こちらについては後ほど御確認いただければと思っております。

資料2の説明については以上となります。

笹井議長            ありがとうございます。今の御説明につきまして、もし御質問等ございましたらお願いいたします。我々の位置というか、立場というか、役職というか、その御説明だったと思います。いかがでしょうか。

伊丹委員            スタートしてみないとよく分からないのが本音でございます。

笹井議長            それはその都度御質問いただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、次に移りたいと思います。

次第の(3)です。図書館協議会への出向委員の選任について事務局からお願いします。

最所生涯学習係長   事務局です。

第19期小金井市図書館協議会委員の推薦について、依頼が生涯学習課にございました。資料3でお配りしている通り、小金井市図書館協議会条例第3条にて、社会教育委員の委員から選出すると定めております。任期につきましては、令和7年11月1日から令和9年10月31日の2年間となっております、年間約4回の会議を予定しています。社会教育委員の会議と兼ねていただく形になりますので、すでに他の審議会をされている方はできません。その点だけ御承知おきください。

説明は以上です。

笹井議長            ありがとうございます。

こちらについても御質問などありましたら、お願いしたいと思います。また、ぜひ私が引き受けたいという御意向をお持ちの方も教えていただければと思います。いかがでしょうか。御質問並びに立候補のご意向はありますでしょうか。

伊丹委員            各委員が何か一つのお仕事を引き受けなければいけないなど、そ

ういうものはあるのですか。

笹井議長

そういうものはありません。先ほど申し上げたほうが良かったかもしれませんが、社会教育委員というのは、役所の審議委員になるのと同時に、独任制というか、一人でいろいろ活動することもできます。社会教育委員の会議は合議制の機関で、その会議体のメンバーとして活動することもできるし、調査の話も出ましたが、お一人で調査、研究して、このようなものが必要ではないですかと話すこともできます。こういう面白いというか、ユニークな立場になっています。ですので、それぞれが別の委員会に所属しなければいけないことはなく、独自にいろいろ動くこともできます。

今期は生涯学習計画を作る大仕事があり、なかなかそこまで活動するのは難しいのではないかと個人的には思っています。そういうようなルールがあります。

小林委員

それに付言すると、社会教育法のところに、社会教育委員は何ができるかと書いてあります。独任制なので、例えば市長部局などいろいろなところに行って、どういう考え方でやっているのかと取材したり、調べたり、社会教育に関することは自分で取材もしくは調べて、それを持ってきてこちらで例えば個々の生涯学習計画を作る時に生かすとか、フィードバックをすることも実はやって良いというか。お金は出ませんが。やって良いことにはなっています。やれということではなく、ご自身の判断で社会教育委員として役割を果たすためにこういうことが必要なのではないかということに関しては、自己判断でいろいろと調べることができるかと書いてあります。

僕もそれに従ってちょこちょこやってはおります。

以上です。

笹井議長

図書館協議会への出向をしても良いという方はいらっしゃいますか。

伊丹委員

やってみたいという気持ちはあります。実際にできるかどうかは別であって、立候補してみようかと思えます。

笹井議長

分かりました。他に立候補される方はいらっしゃいますか。では、伊丹さんをお願いするということで。

伊丹委員 皆様のお力をお借りしながら頑張ってみたいと思います。

笹井議長 では、よろしくお願ひいたします。  
続きまして、議題の4番目です。放課後子どもプラン運営委員会への出向委員の選出でございます。  
これも同じように、立候補の方がいたらお願ひしたいと思ひます。  
はじめに事務局から説明をお願ひしたいと思ひます。

最所生涯学習係長 事務局です。  
同じく、放課後子どもプラン運営委員会の推薦依頼がございまして、資料4でお配りしている運営委員会設置要綱第3条にある通り、社会教育委員から選出すると定めております。こちらの任期は、令和8年3月末となっており、今年度は残り4回の会議を予定しております。  
事務局からは以上です。

笹井議長 これも同じように、御意向をお持ちの方がいれば、立候補をお願ひします。いかがでしょうか。

鈴木委員 はい。行きたいです。

笹井議長 立候補ですか。

鈴木委員 立候補です。

笹井議長 他にいらっしゃいますか。  
では、鈴木委員にお願ひしたいと思ひます。  
とんとん拍子に決まってしまうと、進行役としてはありがたいです。  
続きまして、5番目です。  
議題5、前期委員の検討事項等について、事務局から御説明をお願ひいたします。

最所生涯学習係長 事務局です。  
第32期の小金井市社会教育委員の会議のまとめです。こちらを御覧ください。こちらは、32期の正副議長を中心に作成していただいたものになります。事務局から御説明いたします。

第32期の社会教育の会議では、第4次生涯学習推進計画の評価や第5次の計画の策定について中心に話をいたしました。また、管外視察、研修につきましては、市立清里山荘を視察しました。また、都市社連協の主催する各種研修会にも御出席いただき、他市の社会教育委員とも意見交換、交流を図っていただきました。

最後に、来期の委員の方へということで3点ほど引き継いでおりますので、お目通しいただければと思っております。

説明は以上です。

笹井議長

ありがとうございます。

今の御説明を付け加えて、前期の委員だった方から補足のようなものはございますでしょうか。

北澤委員

北澤です。

特にはありません。

今期は次のプランを作りますが、前期についてはどちらかという、ぼやっとしたそれぞれの立場からの発言がありましたが、一つのことを作り出すような感じではありませんでした。

今期については、明確な目標が先ほど事務局から示されておりますので、それをまずまとめる方向性でそれぞれの立場で建設的な提案や議論ができれば良いと思っております。そこは私も含め頑張っていかなければいけないと思っております。

以上です。

笹井議長

ありがとうございました。

小林委員

補足をもう一つ。

意見の中で社会教育というと、生涯学習など教育委員会管轄のことだけを考えれば良いのかと思いがちですが、生涯学習計画というのは、市長部局がやっていることに関しても、これは社会教育的な関知から見ると、こういう効果があるとか、こういう位置付けだとか、第4次生涯学習計画を見てもそういう位置付けになっています。

市長部局のこともちゃんと社会教育を意識して提言すべきではないか、考えるべきではないかということが、今回いらっしやらなかった方の遺言というか。すみません。遺言ではないです。引継ぎというか そういう申し送りがあります。

全体的に社会教育の生涯学習計画の位置付けを見てもそう書いて

あり、そういうことをやります。

事務方の皆さん、我々の意識もそうですが、教育委員会管轄だけでは考えず、市全体で市長部局のものとの連携なども考えた上で、全体を組み上げて考えることは前提としてやってほしいという話がありました。

以上です。

笹井議長

ありがとうございます。

他にどうでしょうか。付け足したいなど、いろいろ御意見あると思います。よろしいでしょうか。

私も前期も委員もやらせていただいて、私もいろいろ考えることがあって、反省するところがたくさんあります。北澤さんがおっしゃったように、今期はテーマをちりばめて良いものを作ってほしいという立場がありますので、頑張って作りたと思います。

それでは、そういうことを踏まえ今期の議論を進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

続きまして、議題の6番目、会議録の承認について、事務局から御説明をお願いしたいと思います。

最所生涯学習係長 事務局です。

資料6を御覧ください。

社会教育委員の会議の会議録です。会議終了後、文字起こしをしたものを、メールにて全委員に送付した後に校正いただいたものを次の会議の議題とし、会議の中で全体として承認をしてから会議録を公開、ホームページに掲載する流れになっております。

今回は、7月に開催いたしました第2回の会議録について、32期の委員の方に確認いただいたものを御了承いただきますようお願いいたします。

事務局からは以上です。

笹井議長

ということで、ご了承。

最所生涯学習係長 いただくというか、メール等で皆さんの御了承はいただいておりますが、改めてこの会議でもという形でよろしく願いいたします。

笹井議長

では、議事録ということで確認をしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

もし何かありましたら、と言ってもないと思いますが。  
それでは、7番目、会議日程について、よろしく願いいたします。

最所生涯学習係長 資料7を御覧ください。

会議の日程について、今年度の社会教育委員の会議は記載の通りとなっておりますが、資料の訂正、申し訳ございません。10月14日木曜日第4回が、10月9日ということで誤植となっております。失礼いたしました。

会議の日程については以下のとおりとなっております。

社会教育委員の会議は、基本的には会議室の確保の関係等から、日程については事務局に一任していただいている状況です。ただ、委員の皆様、新規の委員の皆様を中心に、この曜日は絶対にとか、この時間帯は絶対無理というようなご希望があれば、考慮したいと思います。この会議の後にメールか、私のほうに来ていただくか、伺えればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会議の日程、真ん中下、10月20日から21日、関東甲信越というところは、私が先ほどお話ししました横浜神奈川大会となっております。

続きまして、12月13日です。こちらは、都市社連協の交流大会で、宮地楽器ホールでやるものとなっております。こちらについては、先ほど御説明した幹事市ということで、26市3市町村がいらっしゃいますので、皆様にはホスト役として社会教育委員の皆様をお迎えいただく、かなり大きなイベントとなっておりますので、ぜひご出席をよろしく願いいたします。

裏面は、都市社連協の役員会議となっております。会長市である小金井市で主催をしております、こちらについては笹井議長、金澤副議長が都市社連協の役員として出席されるものなので、皆様には直接関係ございませんが、一応こういう日程になってございますとお示しいたしました。

日程については、以上となります。

渡邊委員 日程の確認ですが、よろしいですか。

笹井議長 どうぞ。

渡邊委員 10月14日は。

最所生涯学習係長 9日ということ。

渡邊委員 次回が10月9日。

最所生涯学習係長 10月9日になります。

渡邊委員 変更になるのですか。

最所生涯学習係長 そうです。こちらのお示しした資料は14日と書いてしまったのですが、9日に変更いたします。

渡邊委員 時間は14時ですか。

最所生涯学習係長 時間は14時で、場所も一緒です。

渡邊委員 分かりました。いただいた資料で予定していたものですから。9日ですか。

最所生涯学習係長 申し訳ございませんでした。9日ということ、すみません、よろしく願いいたします。

笹井議長 日程に関して、他に御質問ございますか。

鈴木委員 一つ聞いても良いですか。

笹井議長 はい。鈴木委員。

鈴木委員 2月2日の四者合同会議ですが、どなたか講師の方が見えて何かお話をされることが以前あったと思いますが、今回もどなたか講師の方が決まってらっしゃるのですか。

濱松生涯学習課長 生涯学習課長です。

今回、主催がスポーツ推進員の会議になりますが、最初にその会長の先生がお話をしてから、グループワーク、意見交換の時間を設けようかというお話で、今、調整しています。

鈴木委員 その講演は、スポーツ推進員の先生方ですか。

濱松生涯学習課長 そう予定しています。変更の可能性はありますが、現時点ではそういう調整をしています。

鈴木委員 ありがとうございます。

北澤委員 すみません、よろしいでしょうか。

笹井議長 どうぞ。

北澤委員 北澤です。  
場所は未定ですが、時間が10時というのは、現時点でほぼという状況でしょうか。

濱松生涯学習課長 事務局、濱松です。  
時間に関しましては、この時間で進めてまいりたいと考えております。  
以上です。

笹井議長 他にいかがですか。

濱松生涯学習課長 もう一点、事務局です。  
今、スケジュール資料7は、2月27日の予定なのですが、議会日程と重複の恐れがあり、改めてこの日程は調整する可能性がございます。そこにつきましては、戻ってから皆さんにご連絡差し上げる形でお示ししたいと思います。今の時点で、27日はスケジュール調整の可能性があるかと御了承いただければと思います。申し訳ございませんでした。以上です。

笹井議長 先ほど最所さんから、宮地楽器ホールでやる交流大会ではホスト役とおっしゃったのですが、ホスト役は一体何をやるのですか。いらっしゃいませとか。

最所生涯学習係長 そういうことではないです。講演会の実施を小金井市で。2部制になっておりまして、研究大会と、日程に書いてありますが、11月9日にブロック幹事市調布市と、都市社連協のブロックの研修大会があります。11月9日もぜひ出席を皆様にしていただきたい会議です。各ブロックの研修の報告会を前段でやって、その後、第2部として、小金井市から講演会という形、いろいろな形があると

と思いますが、そちらを実施していく形になっております。あくまで、それをやっていく交流大会です。受付をやるという趣旨ではございません。

笹井議長           ありがとうございます。  
もし日程調整のときに、この曜日は絶対だめだと今の時点で分かっていたらおっしゃっていただきたいと思います。決まった曜日と時間帯が分かっていたら。

笹井議長           よろしいですか。

金澤副議長       金澤です。  
毎週火曜日の午前中は、全て予定が入ってしまっていて、恐れ入ります。

最所生涯学習係長   かしこまりました。大丈夫です。

金澤副議長       ありがとうございます。

笹井議長           他に何かありましたら、今の時点で結構です。よろしいですか。  
あとは事務局に調整いただくということで了承したいというふうになります。  
それでは、次に、議題の8番目、関東甲信越社会教育研究大会について、お願いします。

最所生涯学習係長   事務局です。

資料8、資料番号を付けていなくて申し訳ございません。日程をめぐっていただき、社会教育研究大会神奈川大会というこちらの資料を御覧ください。

こちらは、関東ブロックにおける社会教育研究大会の資料となっております。例年、市から予算で二人を派遣という形で参加しております。今回新しくなられた委員の方が複数名いらっしゃるということから、事務局より打診をいたしまして、了承を得てございます。藤森委員と伊丹委員、両名の参加といたしますので、よろしく願いいたします。

笹井議長           余計なことですが、公費で行っていただいたら、レポートバックというか、こんなことがありましたと、簡単にこの会議してもらお

うと思いますので、それも踏まえてよろしく申し上げます。よろしいでしょうか。

それでは、9番目、先ほど教育長のお話にもございましたが、第5期生涯学習推進計画策定についてとなっています。

これについて事務局からお願いいたします。

最所生涯学習係長 事務局です。

資料9をお開きください。A3の長い表となっております。

先ほどから、教育長を含め、生涯学習推進計画の策定が今期の目標とお話いたしました。生涯学習推進計画について皆様に御検討いただき、今年度大変重要なテーマの一つとなっております。

まず、生涯学習推進計画はなんぞやというところから御説明いたします。

そもそも、我々行政には、その事務、事業に応じてたくさんの計画が策定されております。小金井市においても、例えば福祉であれば保健福祉総合計画であるとか、まちづくりであれば都市計画マスタープランであるとか、基本的には策定した計画に基づきまして、様々な事務、事業を進め、また、進捗を管理するといった方法が取られております。計画の性質も、法律で必ず策定を定められているものから、任意で策定するものから、さまざまでございます。事業、事務において、たくさんの計画が存在するわけですが、市として基本的な考え方を持たなければ、計画とちぐはぐになってしまう恐れがありますので、市として基本的な方針や施策を示す基本計画が別途ございます。基本的には、どの計画もこの基本計画の内容を検討しながら、策定をしていく形になっていきます。

私たち教育委員会として教育行政を推進する上で、基本とする教育目標と基本方針というものが定められております。冒頭、教育長から、資料として説明をしたものにはなりますが、こちらの生涯学習推進計画は、この基本計画と教育委員会としての基本目標、基本方針に基づき策定することとなっております。

また、教育委員会には学校教育に関する計画として、明日の教育プランという計画を策定しております。この明日の教育プランも生涯学習推進計画と同様、本年度が策定年度となっております。

教育委員会として重要な計画の策定年度が重複していることから、先ほど申し上げた教育目標、教育方針も今年度改定作業を進めております。

従いまして、教育委員会としましては、非常に重要な教育目標、教育方針、それに基づく明日の教育プラン、生涯学習推進計画を並

行して改定作業を進めている状況となっております。

今、説明で申し上げた内容が、資料9の裏の資料10にあります。1ページ目、こちらの資料となります。

また、参考として、資料10の2ページ以降も教育目標、基本方針と改定案、また、現在の、「旧」といっているものを添付しております。こちらを御覧いただければと思います。こちらの資料については、7月に教育委員会といった会議で資料としてお示ししたものととなります。

今回の生涯学習推進計画改定のポイントといたしましては、教育基本法第3条の実践であると考えてございます。その趣旨を、改定案、後ほど説明いたします計画の体系図で示しています。

生涯学習推進計画は、5年間の基本計画ということで、第4次は今年度、令和8年3月まで、第5次は令和8年4月からとなっております。第32期の委員にも4次の評価、5次の策定についての議論をしていただき、事務局といたしましても6月に策定支援計画を委託するなど、計画の準備を進めてまいりました。

先ほどお話しましたとおり、教育目標、基本方針といった、教育行政の根幹にかかわる部分についても見直し作業をしております。それらと並行しながら今年度計画を進めていきます。推進計画の策定スケジュールは、先ほどタイトなスケジュールと申し上げたとおり、内容につきましては11月末までに素案を完成させ、年末にパブリックコメントを実施したいと考えております。3月までにこの計画を策定したいと考えております。

この会議だけでは、時間が足りないと考えておまして、この後お話いたしますが、社会教育委員の会議の部会として小委員会を設置いたしまして、そこで集中的に計画の中身を議論し、この会議に報告をしたいと考えております。

今回お示しました資料9は、第5次における施策の体系図案となっております。第4次での課題である評価指標の見直し等、課題に取り組みながら、第5次では学びの循環、学びおくりといったキーワードを中心に、全体を四つのフェーズに分けて考えていきたいと思っております。

資料9を御覧ください。A3の長い表をめくっていただき、真ん中辺り、施策の方向性を御覧ください。

先ほど言いました四つのフェーズは、こちらの四つに分けて考えてございます。

まず、第1、学びを始める環境づくりです。誰でも、どこでも学んでいける学びの環境を、きっかけ作りと第1のフェーズで考えて

ございます。

第2に地域とつなげる学習です。学びをつなげる、広げるといった機会づくりをテーマとして、地域や関係団体、大学等関係団体、NPO法人と連携をしながら学びを深めていくことを考えてございます。

第3です。地域とともにつくる生涯学習です。学びをおくる仕組みづくりをテーマに、地域人材の育成、市民の学びの成果を次世代につなぐ取り組み等を、このフェーズでは推進をしていきたいと考えております。

第4に生涯学習の土台づくりといたしまして、行政が学びを支える土台づくりを進めていきたいと考えております。市民が自分に合った学びの機会を見つけるための情報発信をしていくなど、様々な取り組みをここで行政として行っていきたいと考えております。

まずは、学びを始めるきっかけ作り、そこからつなげる、広げる、深める、最後に社会に還元するといった学びの循環、学びおくりについてこういう考え方でやっていきたいと、教育委員会全体を通してぜひこの考えを推し進めていきたいと考えてございます。

四つのフェーズにぶら下がっている個別の施策等について、また、先ほど私が申し上げた言い回しについては、皆様の意見を頂戴しながら進めていきたいと考えてございます。

先ほどお話があった小委員会のメンバーは5名程度と考えておりました、ご参集いただくかオンラインでの開催を予定しております。開催時期につきましては、こちらの資料作成の進捗にもよりますが、この会議の間に1回ずつ実施できればと考えております。メンバーについては、一旦立候補という形で皆様のご意思を確認しながら、選出が難しい場合については事務局で調整したいと思っております。

説明は以上です。

笹井議長

ハイスピードで作らなければいけないということですね。御説明をコンパクトにまとめていただいています。

都市計画や農業の計画や経済計画など、分野ごとにいろいろな計画がありますが、生涯学習計画というのはある種の行政計画の一種です。ただ、行政が主導していくことにはなりますが、そのときに生涯学習ならではの性格付けがあります。何かと言うと、あらゆる分野の生涯学習活動というものが含まれてしまいます。その中で、市民一人ひとりの生涯学習活動がメインです。都市計画の場合は、行政や地域の協議会、企業等が主体になります。その場合は一人ひと

りの市民が主役になるわけです。だから、行政計画を作りますが、市民一人ひとりがその目標に向かって、俺たちも頑張ろうとか、俺たちもこうやってみようかと、意欲をもって学ぶそういう方向付けをしなければいけません。だから、市民の人たちが何を考えていて、こういうことを書けば、小金井市の市民が協力してくれるでしょうというような、行政だけで完結しない、むしろ市民が主役になって、市民のやる気というか、そういう方向付けをできるような目標設定、理念設定が必要になってきます。

もちろん行政計画であるから、大きな理念をもって作り、大目標、中目標、小目標、計画時はそういう物を具体的に作りますが、最後には施策や事業がぶら下がる、行政上のいろいろなそういう物がぶら下がるという、そういう構造になっています。しかし、それは市民にとっても、良いことが書いてあるから俺たちもこれを頑張ろうと、ボランティアズムというか、自発性をそそるようなものでなければいけません。その辺りがこの計画づくりの難しいところであると思います。その行政の施策や事業も教育委員会だけでは完結せず、いろいろなところと絡みます。それが難しいです。

私から質問ですが、生涯学習計画に関して、関係部課長の連絡会のようなものはありますか。

濱松生涯学習課長 事務局、濱松です。

一応、部長会の後に生涯学習計画の連絡会がございます。そこで少しお話をします。庁内の委員会的なものもございます。

笹井議長

計画にこう盛り込めば良いのではないかという案を、その会議で出してもらっても、その担当部課にうちはこんなことできないと言われる可能性もあるわけです。そういう意味では、調整がすごく難しくなってしまうと、抽象化して書かなければいけないところもあるかもしれません。

そういう性格を持っているということです。それをまずご理解いただきたいです。市民がやる気になる、意欲を持てるような計画づくりをすること、もちろん行政がそれをこなしていかなければいけません。両方の面を持っているわけだから、今の時代のトレンドや市民が何を求めているのか、全部を網羅的に調べることはできませんが、きちんと把握した上で計画を作ってください、その計画作りにあたっては大きな2年になり、大目標、中目標、小目標、そして最後に施策、事業があるということだと思います。

それは、ここに書いてある基本理念、最初にいろいろな今の時代

のトレンドとして、国の方針とか、市の方向性があり、そういうことを踏まえて、大目標、中目標、小目標の構成をしていきますが、我々が作るこの意味は、市民がこういうことを求めている、こういうことをやりたがっている、こういうことが必要でしょうということを目標化していくとか盛り込んでいくというのが我々の仕事です。そうしなければ、的を射たものにならないので、そういうふうにしていくのだらうと思います。

今日はこのようなものでどうですかという枠組みをお示いただきましたが、皆さん全員でこの枠組みについて、率直な感想や御意見を。どうぞ。

伊丹委員

伊丹と申します。

先週、9日の日曜日に、99歳からのメッセージということで、倉橋良子さんの講演会を文化協会で行いました。非常にお話としては感銘を受けました。しかし、今、議長がおっしゃったこと、他の方はどう思われたか分かりませんが、私は話を聞いていて、議長がおっしゃったように倉橋さんはそういうことが必要だと、私もそういったことでコミュニティをいろいろ作ってやっていて、現在もやっています。

しかし、それが市民にどうやって広がっていくのかということで、こういうような小さな講演会でも良いので、これは私の感じたことですが、少しずつ市民に流していく方法、これが一番の問題だと思います。こういった計画を作ることは大変なことです、極論を言いますと、自分的にもできることです。これをどうやって市民に流すかということが、今の世の中で一番必要なことなのではないでしょうか。

例えば、市議会でもYouTubeを使っています。非常に進歩されていますが、YouTubeを何人が見ているのでしょうか。ともすると同じようなことが起きてくる可能性があります。その辺りの議論の場、議論というよりアイデアを出す時間を多く作らなければ、形はできたがそういう形で終わってしまう懸念が大きいと思っております。

笹井議長

こういう枠組みができた段階で、ここにはこれを盛り込んだら良いのではないかと、それぞれの委員の皆さんに考えていただいて。しかし、それは具体的に施策や事業として、こういう仕掛けが大事だというご指摘もあるでしょうし、そこまでよく分らないがこういう方向が大事だという方向付けだけの場合は、行政の事務局の皆さんに考えていただいて、それを具体的な施策事業として書くと。

我々はどのような施策が可能かも分からないところがあります。しかし、今、伊丹委員がおっしゃったように、こういうことを広めていくことが大事だ、アイデアだけではなく、その言葉を変えた方が入れることができる。具体的なところまでいかななくてもある程度の段階で方向が決まっているのであれば、それはまとめていければとは思っております。ですからその辺はご遠慮なく出してください。

行政は今の時代は特にお金がないので、施策や事業はどうしても予算とタイアップしてやらなければいけないものがあります。必要性は分かるがお金がないというケースも中にはあります。その辺りは行政計画を作る以上は、無理は言えないと思います。

しかし、先ほど言ったように市民の側で、俺たちは金がなくともボランティアでやるという人もいるかもしれませんので、ここに書いておく意味はあるのだと思います。ですから、いろいろな御意見、アイデアを出してくださるといいと思います。

藤森委員

国の方針と書いてある左側のページ、気になるところがあります。上の8行ぐらいでしょうか。令和5年度6月に閣議決定されたという、「ウェルビーイングの向上」という二つのコンセプトが示されました。」、ここまでは良いのですが、この下に書いてある文章は、国の方針として明文化されたものがあるのでしょうか。それともこの文章はこの資料を作った人が書いたのか気になっています。

何を言いたいかという、学習と教育は食い合わせが悪いです。学習というのは、学びの主体が個人、市民です。教育というのはそれを教え込もうとする上からのものなので、国の方針自体に、子どもたちに教育を通じて向上させていくことの重要性を上からガツンとやらせようと国の方針に入っていて、その下に生涯学習計画があります。こうなっていると、これではどうにもならないのではないかと思います。この「ウェルビーイングについては、」からの文章に、教育、教育政策と入っています。これは国が決めていて、絶対にこういうものなのですか。

笹井議長

いいえ。

生涯学習という考え方の中には、三つのタイプがあります。

一つは、一人で学ぶ、読書も生涯学習、どこかへ旅行へ行っているいろいろなものに感動するというのも生涯学習です。演劇を見て感動するというのも生涯学習です。

2番目は仲間と一緒に学ぶ、これは社会教育です。一緒に意見交換、実践して、いろいろなことを学ぶ、これは社会教育のベースに

なっています。

3番目は学校で学ぶというのがあります。どれが1番でも良いですが、学校というシステム化された中で学ぶというのがあります。

教育というのは、3番目の話です。生涯学習というのは、例えば、おやじの会のような、あれも生涯学習、社会教育の活動です。教育ではありません。なので、教育のこととして書いてあったとしても、それは教育という領域範囲内で「ウェルビーイングを向上させる」をやりますというだけであって、それ以外の生涯学習の場はたくさんあるわけですから、そういうことを含めて生涯学習という計画を作っているということです。

藤森委員

なるほど。

ただ、私が子どもの支援をしている中で保護者などいろいろな方と話しますが、教育という言葉の使い方は大体、学歴、学力です。そういう価値観がすごくあります。学習、教育の言葉の定義で、教育と言われたら学校のことだという感想です。そうではないのだという認識の人とそれではないのかという認識の人がいます。

一般市民は、教育というと教わるものなので、文言が大事ではないかと個人的には思いました。

笹井議長

わかりました。国の教育基本計画について言っただけの話だと私は理解しています。

ですから、計画そのもののワーディングというのは、こう言っては悪いですが、全体を見て古臭いワーディングは適切なものに直さなければいけないと思っています。

藤森委員

そうです。

ワードがすごく重要だと思っています。

僕は、学歴社会から最新学習歴社会への変換という本が結構好きです。生涯学習していれば、今、一番自分の頭が良いはずですが、最新の学習歴を高めていこうという考え方が、この生涯学習計画に必要なのだらうと思います。

金澤副議長

人生今日が一番若いのと一緒でございますね。

藤森委員

そうです。

今が一番賢くなければおかしいはずですが。

小林委員 学習観が、勉強になってしまっています。苦行だと思っている人が結構います。大学が終わったらやらなくて良いと思っている人も結構多いです。

藤森委員 そうです。  
15歳が一番賢くて、大人が一番勉強しない国、日本。

小林委員 今、それですごく労働者の質が悪いという声も

笹井議長 いろいろな民間のシンクタンクでもそういう提言がたくさんあります。大人が一番勉強していないと。

小林委員 面白くて、生涯学習がちゃんと浸透していれば、自分でどんどん学び続けて、どんどん新しいことに興味持っていくますが、日本はそれが弱いです。

藤森委員 そうです。

小林委員 そう言われています。

金澤副議長 確かに言葉は大事でしょう。

小林委員 はい。

金澤副議長 一般的に認識されている単語の意味で受け取られてしまったら、自分事になるという計画をお示ししても、そういう捉え方をされてしまうので、やはりワーディング、言葉は、説明も必要の場面がありますし、とても大事かと、思います。

小林委員 委員同士でもすれ違うことが結構多いかもしれないので、そこは慎重にどういうコンセプトか、どういう意味合いかを確認しながらやっていきたいです。

藤森委員 それは最初に思いました。生涯学習をするためには、教えてあげるといふより、多様な選択肢を作るとか、プラットフォームを作るとか、学びやすいと皆が思ってくれる環境を作っていくことが大元になると思います。

どういう言葉になるかは全然分かりませんが、その方向性という

か。

笹井議長

分かりました。ありがとうございます。

教育というと、学びの価値とか目標を外の人が決めて教えてやると、その価値目標が外在的に決まります。しかし、学習というと本人がそれを決めます。だから、根本的に逆のベクトルです。その辺りがどのようにするか難しいところではあります。

もちろん教育は必要ですが、学習の時代になっているところで難しいと思います。

小林委員

国の施策で税金を使ってしまうので、どうしても強制力というか、学校教育の部分は残ってしまう部分があります。

主体的な学びなどいろいろなことを言っていますが、主体とすると、学校教育の先生たちは何もカリキュラムを作らなくて良い、そういうのをやらなくて良いという話になってしまいます。

ただ、生涯学習や社会教育は全部の教育を包含していて、その一部に学校教育があるという考え方もあります。そういった考え方でいくと教育というのは、若干強制、外的な枠のようなものにはめてしまうのはしょうがないという部分は許容するというか。逆にそれ以外の地域や学校以外の部分で、主体的になる部分の施策をもっとわるという感じになったら面白いだろうという感じを、この間ちょっと聞いた話だったので、すごく今共感しました。

笹井議長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

小林委員

その学びのきっかけなどをやるときに、放っておくと学ばないかもしれないし、意欲満々の人ばかりではないと考えると、3番と4番の人材の育成、やってみませんかと誘ったり、興味を引き出したりという部分の人材育成を、今回フィーチャーして入れていただいている感じがしたので、すごく良いと思いました。

また、土台づくりも環境づくりということだと思います。このままでは小金井市はだめでしょう、もう少しこういうところを考えなければいけないでしょうという心意気が3番、4番で出ていたと感じました。後ろのほうは置いておいて、とりあえず良いと思いました。

一方で、1番の学びを始めるというところ、どうやって誘うのかという発想で考えなければいけません。

小金井市が生涯学習をやっていることは、そんなのやっているのとか、公民館に行ったことがない、図書館に行ったことがない、何ですかそれ？とか、届いていない人たちにどうやって興味を持ってもらうか、さらに大人は学ぶ必要がないと思っている人たちがたくさんいるわけです。そういう人たちに、こうであれば面白いでしょう、こういうもの興味ないですか、今問題になっているでしょう、あなたにも関わるところがあるのではないですか、自分事にする、という工夫が必要です。そういう意味では、そういった人たちをどうやって誘うのか、モチベーションを引き出すのかということが一番なのではないでしょうか。

加えて、学び観の変換です。学習と学びは違うでしょう、大人も学んで良いでしょう、学びは楽しいでしょうという変換が必要です。そういうものは、3と4の人材の背景がなければできませんが、1はそこを目指すべきではないでしょうか。

僕はこれを見ていて、1が一番苦勞したのではないかと見えました。計画の骨子案を作るときに、1をどうしたら良いだろうと迷っている感じがしました。ここはもう少し頑張って、僕らも知恵を出してやっていきたいです。多分、3、4がちゃんとできなければ、1に行かないと思います。

藤森さんの学習観の変換というのはすごく良いと思いました。それは学校教育ともちゃんと連携していかなければいけないでしょう。

学校の先生は地域のこと何も知りません。申し訳ないですが。受け身です。忙しすぎてです。別に悪気はありません。しかし、地域の方は管理職の先生しか対話できておらず、結構難しいところがあります。

ただ、地域の勉強は家庭科でやります。僕は若い先生の授業を見ていましたが、家庭の話はさんざんします。地域のところは、お祭りとかでおしまいです。おやじの会は全く言われていないと思いつながら。地域でいろいろやっている人たちは全く意識されていません。それは、子どもたちが地域と接する機会が減らされていると。

子ども会の加入とかもあります。小金井市は、前に統計を取ったとき、地域のお祭りなどに参加したことがありますかと聞いたら、最低でした。都の平均以下でした。そういったことも課題というか。

お気を悪くされたらすみません。小林でした。

笹井議長

何かありますか。

新井委員

おっしゃる通り、耳が痛いと感じました。確かに小林委員のおっしゃる通り、若手の教員は地域と関わる機会がほとんどない状態です。

お祭りに出ていくのも、働き方改革もあると思いますが、管理職が行くぐらいだという意味では、地域のことは全く知らない状態だと感じています。

先ほど出てきた学習と教育の言葉については、教育はいまだに教えてやるという印象が取られているのだと、現実的には教員の教え方も変わっており、探求学習や自ら課題を発見し自分事として考えていこうという教育は推進しています。じわじわと進んでいると思いますが、まだまだだと皆さんの御意見を聞いて分かりました。さらに、そちらも進めていきたいと思いました。

新井です。

小林委員

大学のボランティアの方、先生になる方、ボランティアとして受け入れています。地域の活動参加したことないという方は半分ぐらいです。もう半分ぐらいは、小さい頃やっていたので、おやじの会やお祭りに行くのが楽しいですと、こちらは初めてでびっくりしている感じです。今、若い先生方もそういう感じです。それは、先生になる子たちなのである程度そういう素養があると思っていますが、一般の大人であれば地域のことに関わったことがない大人が出てきています。

そういうことを前提に戦わなければいけないというか、向き合わなければいけません。

小林でした。

笹井議長

ありがとうございます。

他の皆さん、どうですか。

鈴木委員

鈴木です。

笹井議長

はい、鈴木さん。

鈴木委員

すごく良いと思ひ話を聞いていました。藤森さんがおっしゃることはまさにその通りだと思っていました。

今、地域に出ている管理職のお話も出たので、私の知っている範囲でお話をいたします。

地域に積極的に出て行っている管理職は、小金井市内の第一中学

校の副校長、元南中の副校長の星野先生は積極的に地域に出でいかせています。それから、子どもたちにもどんどんボランティアに行くと、地域に出して行っています。彼に学ぶことはすごく多いです。特に、うまく人と人のつながりを使います。

今年の2月でしたか、2年生が職場体験に行くときに、日にちが被ってしまったからと、業者さんから突然キャンセルがありました。どこへも行くことができないので、以前こんな面白いことをやっている人がいますとおつなぎした、いなげやの裏の三光院さんはどうかと話をしてくださいました。すぐに三光院さんと星野さんとお話をして、良いということでした。その子たちはパンカフェに二日行くのを楽しみにしていましたが、一日目は精進料理、二日目はそのパンカフェと二つの違う体験ができました。子どもたちは二日ともパンカフェが良かったと言っていました。

そのような感じで人に声をかけて地域の情報を集め、自分が持っているデータの中から人に気軽に声をかけて地域とつなげることができている先生はいます。

ただ、その方のお考えや素養、そういうことに重きを置いていない先生もいらっしゃると思うので、そこに大きくよるのでしょう。

あとは、面白い先生としては、校長会でお会いになると思いますが、本町小の佐藤歩先生、本当に面白い方だと思います。

僕は今、南中の文化厚生委員です。

昨年の段階で英語が大嫌いだという子どもがどんどん増えてきています。

その原因は何ですかと先生にお尋ねしたところ、小学校3、4年はゲームなのでやりますが、5年、6年から評価が付いてきます。評価が付いてくると勉強になるので、段々と嫌になってきています。その先生が教員になったときは、中学校で初めて英語をやるから楽しみという子たちがそれなりにいました。しかし、最近は小学校で英語をやることで英語に苦手意識を持ったまま入ってきます。

もう一つは、お金があるお宅は、小金井はお金があるお宅がたくさんあるのだと思いますが、キッズ英語をずっとやっています。そうすると学校に入ってきた時点で、英語を全くやってこなかった子とキッズ英語でやってきた子の差が付きすぎているそうです。グループ学習をしましょうと言っても、皆同じようなレベルで頭をくっつけて話していると授業になるのですが、5人チームの4人が、例えば、カナザワは英語が得意だからカナザワにやってもらおうということで、全然モチベが上がりません。

そのようなことが問題だといって、いろいろなゲームをやりつ

つ、英語に興味を向けようと、去年1回イベントをやってみました。

小金井はALTが年に4回しか来ません。約2週間、何十クラスを回っていくので、年間4週間のうち、何日間その学校にいるのかわかりませんが、そのクラスにALTがいるのは2時間です。この時間に習った英語を使うしかありません。これは、予算的にすぐ増やせる問題でもないと思います。

例えば、今、小林さんもおっしゃっていましたが、中央大学の教員の卵で、いろいろなところへ行ってプログラミングや英語を教えている生徒たちがいます。

小金井には、中央大学付属の中学校と高校があるので、頻繁にこちらに来ているらしいです。SNSの使い方などを講座としてやられています。この方たちとの連携はどうですかとお話をしても、テクノスにはエアトラベルという専門学校があり、そこの方との連携はどうですかという話を英語の先生に提案して、もう少し英語を使う機会を増やしましょうと言うと、二つとも答えは、結構です、自分たちのカリキュラムを使って授業をやっているの、文科省のものをこなしていくことが大事なので、そういった地域との連携は結構です。

そのうち一つテクノスさんについては校長が、私が引き取って話を続けますということでした。

話としては、いろいろなことを相関的に書いていくのも良いですが、コンサルの方には、実態としてそういうことがあるところをもう少し深掘りして、いろいろなものを考えていただかなければ、府中や武蔵野、人もものもお金もたくさんあるところで出来るような案をここへ書いても、結果としてできていないと評価の段階で学校現場の人の首を絞めることになると思います。生涯学習課の皆さんの首を絞めることになると思います。僕らとしては、町へ出てフィールドワークをしているわけだから、もっと積極的にコンサルの方とお話し、小金井市の身の丈に合ったものを作っていくのも良いのではないかと思います。

以上でした。鈴木です。非常に長々とすみません。

笹井議長

ありがとうございました。  
他にいかがでしょうか。  
どうぞ。

小林委員

今の感想です。

結局、つなげているのは校長先生や学校の先生だよりになっているでしょう。それがあれなので、市民の間でもつなげるなど、そういう人が出てこなければ。鈴木さんはつないでいますが、こういう人が珍しくなくなることが大事だと僕は思います。

小金井市でも先生以外につないでる人はいます。しかし、要するに野生状態です。ちゃんと養殖しなければいけないでしょう。もう少し人材を増やしたり、層を厚くしたり、いろいろなところにつなが人がいることがすごく大事です。

人材のなんちゃら、3番にありました。鈴木さんから学校の先生ですごく良い先生がいると聞きますが、先生頼みではだめでしょう。そのような感じはします。人材を広げなければ。

鈴木委員

そうですね。

そういう仕組みづくりと、もし人材を広げていくというのであれば、何度か教育長にお話ししていますが、施策の方向性の3番の支援者の人材育成のところだと思っています。今、小林さんの話もそこによって立つと思います。

いきなりやれと言われても、生涯学習の勉強をしました、あなたが今度は講師になってやりなさいと言われても、部屋の押さえ方も分からなければ、どう運営して良いかも分かりません。もし本当に教育長が考えてらっしゃるような、習ったことをまた人に広めていくことのローテーションを作っていくということであれば、お忙しいとは思いますが、生涯学習課の中にビギナー向けのサポートチーム、伴走者のようなものを作り、ある程度のところまで教えてあげることが大事だと思います。

板橋の産業何とかセンターでは、すでにそれはやられています。あなたも先生になりませんかというようなコメントで、収支もちゃんと書いてあります。1時間あたり2,000円で部屋を借りて、2,000円の授業料、参加料を取って、二人来たら2,000円の挙がりです。そのような形でいろいろなサポートを板橋ではされています。

そのような形があると。私はそんなの無理という形ではなく、生涯学習課にサポートチームがありますと相談に乗っていただけると良いのではないかと、社協でも良いと思います。

笹井議長

それを今年度の計画にどう盛り込むか。

ありがとうございます。他にどうでしょうか。

どうぞ。

渡邊委員

渡邊です。

皆さんベテランというか、思いがすごく溢れていらっしやるのであれですが、地域とつながる機会は今すごく少なくなっていて、結婚する人も少ないし、子どもも少ないし、子ども会の子どもも少ないし、町会に入っている人も少ないです。

皆、面倒くさいからあまり人とつながりたくない、子どものころからトラブルを起こしたくないからつながりません。そう育ってきて、習い事は一生懸命しますが、地域のつながりは少ない中で、成長してその後、若い人たちも地域につながりたくない、面倒くさい、煩わしい、何かトラブルになったら嫌だと、すごく個人主義の国になってきているのではないかと思います。

小学校でこうやったら良いのではないかとか、ボランティアにこう入ってもらったら良いのではないかという思いはありますが、それ以前に皆がつながりたくない、出ていきたくない、自分一人であれば幸せだという人たちを、そうではなく皆でつながっていく中に、学びもあるし喜びもあるし生きがいもある、本当はそういうものが理想の社会だと教えて。子どもを育てる前にでしょうか、小さいお子さんから生涯学習なので、人生100年時代となっていますが、その人たちがどうやって地域とのつながりを作っていくのか、つながっていくことでこんなに楽しいことがたくさんあります、こんなに成長できますという社会にしていくことが、すごく大事なのだらうと思います。部分的に言っても、小学校ではこうあるべき、中学校ではこうあるべき、ボランティアにはこう入ってもらいたいということよりも、もっと根本的な部分で、人とのつながりをどう作っていったら良いかを考えていくことも必要だと思っていました。

共生社会というふうにあります。今、社会は分断になっています。外国人がこんなにたくさん入ってきているのに、外国人排斥のような、小学校でも外国人の子がいじめられ、お母さんたちは日本語が分からないので地域に出いけない、ゴミの問題やいろいろな問題でトラブルを起こしてしまいます。

理想はすごくありますが、現実はいくらでもできること、私たちがやらなければいけないことは身近にあるのではないかと、私は漠然と、皆さんの一生懸命な話を伺っている中で、そこまで行く前の段階に、もっと地域とのつながり、人とのつながり、それが自分の将来をすごく豊かにするという気持ちになってもらえるような計画が、もっと身近で触発されるようなものであってもらいたいです。

今日は、すごく漠然としていて申し訳ありませんが、そのような思いで話を伺っていました。それがどういう形で反映されているのか、今までそれをさんざんやってきてこの計画になっているのかも分かりませんが、もう少し人と人とのつながりの温かさ、楽しさ、生きがいのようなものを感じられるものになっていくと良いだろうと、私の感想ですがそのような思いで話を伺っていました。

できれば、そういう計画で、もうなっているかもしれませんが、もう一回学びながらやっていきたい。小さなお子さんから高齢者まで、それぞれ人たちがどこかでつながれる、そういう場所がある、居場所づくりを一生懸命やっている方もいらっしゃると思います。どこかでつながらなければそこまでたどり着かないわけなので、人とのつながり、その年代、その場所、その人がいる場所でどうやってつながるのかをもう少し深掘り出来ると良いと思いながら伺っていました。

すみません、漠然とした話で。

笹井議長

ありがとうございます。

今、大学生に関しても、すごくアクティブな人たちと全然アクティブではない人たちと二つに分かれます。

アクティブではない人たちというのは、話をしてみるとすごく傷ついています。子どもころからずっと傷ついています。だから、人と関わるのが怖いのです。自分が傷つけられたくないし、相手も傷つけたくないのです。

だから、皆、バーチャルなSNSとかに走ってしまうのではないかと思います。それは、若い人だけではなく、子育て中のお母さんや、あるいは、パートナーが亡くなった高齢者は、孤立がすごく進んでいます。

これは本来の社会教育の問題です。社会教育として、21世紀の今の日本に必要な形のとがり方を模索していく。それは一つ社会的な大きな課題になっていると思うので何らかの形では思っております。

ありがとうございます。他にどうでしょうか。

どうぞ。

小林委員

小林です。

そういう意味では、昭和からある地域の団体などのマネジメント、やり方は、義務と責任でやっけてしまっている部分が比率として多いです。

僕もPTA会長をやっていましたが、PTAが嫌われるのはそういうところですよ。平等に全部やってくださいと、義務と責任が押し付けています。楽しいが1ミリもないでしょう。運営しているPTA役員は大体嫌われます。

それはどこも一緒に、昭和から続いていて何年もやっている、義務と責任で、前年度踏襲となると、何の工夫もなく、遊びもできない状況になっています。その劣化具合、そのマネジメントは変えていかなければいけません。それは地域の人たち、時代が変わっているし、組織のマネジメントの仕方も知りません。

人が集まらなくても良いでしょう。いる人間だけでイベントやれば良いと思えば良いですが、イベントが失敗したら困るから何人か来るように自然に声をかけて、動員してと考えると、難しい、面倒くさい。休養ができたらいけなくなるでしょう。何で来ないんだお前と、言わないですが、それを感じてしまう人たちがたくさんいます。マネジメントの仕方を変えていかなければ本当はいけません。そこも社会教育のあれだと思えます。

僕もPTAは大嫌いで、おやじの会を作ったという経緯があります。

PTAの中も、今は大分変っているPTAが多くなってきていますが、まだ古いままだと思っている人がたくさんいます。そういうイメージだと関わりたくないと思ってしまいます。

僕は町内会も青年会も全部入っていますが、もう少しこうしたほうが良いというのはあります。

そういった面もいろいろと変えていかなければいけないのではないのでしょうか。楽しいを前面に押し出すなど、やり方として、特に高齢化している団体、組織、若い人が入ってこないところは変えなければいけないのだろうと思っています。

伊丹委員

私は昭和16年生まれです。戦中派になるのでしょうか。子どもの頃を思い出すと、向こう三軒両隣というような、システムだったのか、何だったのか分かりませんが、何かがあると隣のおじいちゃんやおばあちゃんと助け合っていました。

自分が家に帰って鍵が閉まっていたら、隣のおばさんが、入って親が帰ってくるまで待ちなど、上がらせてもらったり、それが良かったとは思っていませんが、そういう時代に育った私の考え方で、パッと見た感じ藤森さんなんかはお若いと思いますが、その辺りで今度、神奈川で一緒になるのでゆっくりお話ししたいと思います。そのジェネレーションギャップをものすごく感じます。

今、おやじの会をすごいなと話を聞いて、やってらっしゃることはすごいなと思いますが、私にはそれだけの体力はないし、やれないでしょう。そういうような年代的なギャップをすごく感じます。

なので、この委員会で84歳のじいさんが入っても良かったのかなど。

藤森委員 絶対に良かったです。

伊丹委員 文化協会の中で、伊丹、どうだと言われたときに、こんなじいさんが出たって意味がないですからやめましょうよ、と言いましたが、皆さんの話を伺ってみて、古い人間は古い人間なりの良さがあるのではないかと、こういう機会があれば昔はこうだったと、懐かしい話かもしれませんが、お話し上げるのも良いでしょう。

それと、先ほど渡邊さんの発言の中で、本当につくづくそれは私も感じています。

ではそれは何なのか。社会が悪いのか、政治が悪いのか、日本が悪いのか、そういう問題になってしまうと、我々の段階で、では政治が悪いから政治変えましょう、皆さん全員が共産党になりましょう、参政党になりましょうというわけにいかないでしょう。

それは感じて、そこで止まってしまったのではだめだろうから、何らかの形で、少なくとも小金井市の中では、84歳のじいさんが必要ではないかと思ってここへ参加してきました。

ジェネレーションギャップが大きいと感じます。

藤森さん、ゆっくりお話をしませんか。自由参加だそうですので、一緒によろしく願いいたします。

藤森委員 面白くて惹かれるんです。

笹井議長 ありがとうございます。

私も今、東京に住んでいますが、千葉県の田舎育ちです。九十九里浜の近くなので、昔のライフスタイルというのはよく知っています。うちの母親は農家の出身なので、農村共同体のしきたりというのはよく知っています。

そういうことからすると、今の時代のライフスタイル、生き方と雲泥の差があります。それは、今の時代のことを考えるベースになるのではないかと思っているので、ぜひそういう話をさせていただきたいと思います。

金澤副議長

金澤です。

日本では、割とこの年齢だからこういうふうにしなければならないとか、こういう立場とか、先ほど色々ございましたが、確かにそういうことがあるかと思えます。

私は、海外にも少し住まわせてもらう機会があり、様々な文化に、国境を越えて、出会うチャンスがあり、日本と違うと思う良さとしては、年齢などで何か限られたりしていないように感じます。

小金井市文化連盟という団体から参りましたが、大好きな先輩というか、仲間の方は、ちょうど十六夜会の昭和16年の先輩、たまたま伊丹委員と同年でしたが、仲良くさせていただいております。そこに年齢のギャップは私自身はあまり感じておりません。且つ、先輩もそういうふうに接してくださっていると思うので、伊丹委員に置かれましても、仲間として個人的にはあまり年齢ギャップは感じることはないかと思っております。

あとは、今回の会議、笹井議長が最初に根幹のような説明をしていただき、市民が自分事とするというキーワード、御意見を皆様おっしゃられた中で共通しているのは、ノー批判、批判なしに御意見をおっしゃられる方が、この33期にお集まりなのではないかという印象でございました。ですので、引き続きノー批判で明るく、楽しく、市民の方一人ひとりに届くワーディングで、旋風を巻き起こせたら、33期いいねと何か残せたらと思いました。

まとめみたいになってしまっていますが。

鈴木委員

ワードチョイスが最高だね。

金澤副議長

そのような感想になりました。今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

笹井議長

分科会の委員のことは、事務局に調整をお任せしてよろしいでしょうか。

最所生涯学習係長

立候補で今やられても大丈夫です。

笹井議長

では、もし立候補したいという方がいらっしゃれば。

濱松生涯学習課長

池田委員も立候補ということでお話を聞いております。

笹井議長

小林さんと渡邊さんと藤森さん。

最所生涯学習係長 議長、副議長は当然入っていただく形になるかと思います。

笹井議長 では3人ということで。

濱松生涯学習課長 そうです。

池田さんと渡邊さんと小林さんと。

笹井議長 藤森さん。

藤森委員 僕は必要あったら。まだ初めてなので、あんまり難しいことやってしまったらあれなので、今、手を挙げましたが。

最所生涯学習係長 今、6名いらっしゃって、通常5名なので、事務局で調整して、またお示ししたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

笹井議長 ありがとうございます。

では、この辺りで調整いただきたいと思います。

生涯学習というのは、1980年の終わりから日本では生まれてきて、30年以上前、当時日本経済はバブルの時代でした。元々、生涯学習の概念は未来志向で前向きですが、バブルの時代にできたものなので超前向きな話になっています。

今は必ずしもそうではなく、いろいろな社会的な問題を抱えています。ですから、小金井も例外ではないと思いますし、前向きな中に課題解決につながるような計画にできればと思っています。

今日は本当に忌憚のない御意見をいただきありがとうございます。ぜひ議論を楽しみながら良いものを作っていきたいと思っています。ご協力お願いいたします。

それでは、今日の会議はこれでお開きにしたいと思います。どうも皆さんありがとうございました。